

CODIMAG VIVA 機はパッケージ業界で水なし印刷の機会を知らせている

全水なし印刷業者に告ぐ。米国ではパッケージ業界は 1,140 億ドル(約 13 兆 1100 億円)と見積もられているが、これは商業印刷の 80%の規模であるものの、工場数は 10%に過ぎない。

パッケージ業界の調査の反応は商業印刷業者の 3 倍もの好況感を示し、つまり、42%の方が 2,000 年では好況と答えてくれ、商業印刷業者の同回答の 14%との差を示している。

詳しくは TrendWatch Graphic Arts (TWGA) の題名 "TrendWatch Graphic Arts Packaging:市場への入門 <http://www.trendwatchgraphicarts.com> をご覧いただきたい。

全レポートは TWGA の eStore で PDF フォーマットのものをオンラインで購入できる。水なし印刷業者がまだそれを行っていないのなら、この集計数字は水なし印刷業者こそパッケージ分野へ参入の探求を促す予兆と捕らえていただきたい。

粘着ラベル業者はパッケージ分野へ早い段階で侵入をしていたが、フランスの Etiqroll 社、

AQ Australia 社などを特筆したい。



フランス、パリ市の郊外にある CODIMAG 社の工場。この記事執筆中、2 年過ぎで 36 台もの水なし VIVA 印刷機が売れたとの情報を入手。

ある印刷機メーカーはこの市場分野へ目を注視し続けていた。1990 年の初頭、CODIMAG 社の創業者、Eric Tison と Alain Demol は間欠給紙技術を粘着紙用印刷機に採用することにしたが、当時はまだ、5%以下の業者しか感圧ラベルを使っていなかった。この決定は Tison and Demol 社の先見性そのもので、現在ではラベル市場の 70%が感圧ラベルとなっている。Viva340 峡幅・水なし輪転機を 2,000 年 3 月に登場させてから CODIMAG 社は今や、新進の粘着ラベル市場での主役者となった。

感圧ラベルの高成長・急成長の推進役は世界のワイン業界であった。この分野の専門家によ

ると消費者の90%はボトルのラベルに基づいてワインを選択する。つまり、ワイナリー(ワイン醸造所)はラベルの店頭棚での訴求力次第と言う挑戦を受けているのだ。感圧材料を使うことによりラベル業者は旧式の糊接着ラベル以上にクリエイティブ度を付加できる、つまり、打ち抜き、箔押し、浮き出し、その他加工装飾を施せるのだ。

業界紙「Label & Narrow Web magazine」によると、大規模ワイナリーでは、その印刷が楽なために新製品の打ち上げに感圧ラベルを使う。感圧ラベルのボトルでは1週間内に店頭に出せる。仮にその反響が良くなかったときには、営業改善のためにラベルのデザイン変更を加える。

Viva 340 水なし印刷機は発注者の要求を完璧に満たしてくれる。フランス、パリ市郊外のCODIMAG社によって造られた Viva340 機は打ち抜きが標準装備で、部分ニス、ラミネート加工、箔押し、シルクスクリーン印刷、浮き出しなどのオプションが着けられる。Viva 340 機は幅 340mm、胴交換なしで、迅速にして柔軟なやり方で長さ 50mm ~ 305mm の寸法を変えられる。速度は毎時 12,000 枚の印刷に相当する。各ユニットには 3 本の着けローラ、3 本の横振りローラ、追加 2 本のライダーローラ、5 本の練りローラと呼び出しローラがある。UV 乾燥機があり、インキを乾燥してくれるので、インライン加工ができる。

温度制御は多段式で横振りローラでは通常 28℃、版胴への着けローラで 21 ~ 26℃、これはインキの種類、盛り量の差によるのだ。



AQ オーストラリア社の特殊注文で塗装された CODIMAG Viva 機。WPA 会員 JL Lennard Graphics 社が CODIMAG 機のオーストラリア代理店である。

UV 乾燥機は空冷式で UV 反射板には通水で 21℃ に冷やしている。

版は東レのアナログ版を使用。Viva 340 機は幅広い被印刷材、コート紙、混紡紙、プラスチックフィルムに印刷できる。水なし専用機で付加的な利点、色がしまる、迅速見当出し、高細線受付け、迅速切り替えなどをもたらしてくれる。

TrendWatch Graphic Arts 誌の上述の業界報告では「迅速切り替え」が印刷業者の回答中、

43%と第1 要望に上げている。TrendWatch Graphic Arts 誌の取締役 Vince Naselli によると、パッケージ業界は技術に焦点が当てられ、革新への投資余力を持ち合わせている。「迅速切り替え」と「革新」が同時に述べられているが、水なし印刷業者、またはベンダー各社が CODIMAG 社に見習っていただき新しい分野へ乗り出す機会を待ちたい。TWGA 誌のパッケージレポートによるとフレキシソが全パッケージの大きな部分を占めると予想されている。

DriLith W2

サンケミカル社の DriLith W2 水溶性インキはパッケージ分野への進出口、あるいは論理的にも選択肢となろう。UV 硬化インキが公式的には使えない間、サン・ケミ社は WPA 会員の L & E パッケージング社でのテストして成功を納めたが、これに続く方の参入を歓迎視している。

サン・ケミ社は DriLith W2 の世界的な、活発な要望を報告している。米国ニュージャージー州にあるサン・ケミ社の Daniel J. Carlick 技術研究所の Dr.Emmanuel Dimotakis, Michihiko Toya それに Anthony Cieri による白書では DriLith W2 の性能比較を発表している。DriLith W2 の一般性能特性(色調、セット性、艶)、ドットゲイン、トラッピングは油性インキと同等と判明されている。タック値は低く(油性水なしインキより 3~5 値低い)、ボディは柔かいので扱いが楽で、幅広いコート紙、被コート紙を受付ける。刷り出しヤレが減少し、より棒積み適性が生まれてくれ、さらに、UV 互換性(うわのせ可能)にして退色抵抗を有している。

サン・ケミ社の白書の全容、特別偏は Ink World magazine 誌、2002 年 9 月号で (www.inkworld-magazine.com)見られる。DriLith W2 インキのパッケージ業界での本質的な特徴として、迅速乾燥性と安定性を上げられる。

サン・ケミ社技術センターの科学者、Dr. Dimotakis は 5 分内での耐摩耗性は油性インキでの 24 時間放置後のものと同等となっている。迅速乾特性引き出し、多頻度取替え印刷の実技をこなしている。

枚葉印刷業者は乾き待ちのためにラベルを「打ち抜き、浮き出し、箔押し、ラミネートの後加工」に直ぐに出せなかったが、DriLith W2 の迅速セット性により多大なる潜在性を手に入れられよう。

また、商業印刷業者のようにパッケージ業者も環境適性に興味を持つことになる。

水なし印刷と水洗浄インキの組み合わせで印刷室の VOC を削減できるが、大変力強いものとなってくれる。

LabelExpo Americas 展、9 月 10~12 日、シカゴで開催では水なし印刷の環境適性を実演するが、CODIMAG 社はブース 1639 で WPA のバタフライロゴを印刷してくれる。神のスピードを彼らに願いつつ、諸兄も新分野への挑戦への刺激と激励になればと祈る。

CEDAR GRAPHICS 社は 9 月 11 日写真記念誌を出版

長年の WPA 会員、CEDAR GRAPHICS 社は 24 ページの写真集、「Richard Falco 撮影の 9 月 11 日の証人として」を出版した。本書では恐ろしい崩壊さらに、世界貿易センタービル、ツインタワーへの 2001 年 9 月 11 日、テロリストの攻撃の余波で献身的な働き振りをしたレスキュー隊を特集している。



できごと



オーストラリアの JL Lennard Graphics 社、Norm Fizell は Waterless Currents、昨年 7 月号で Basys UV platesetter(CTP)で東レアナログ板の出力に成功したと記事をくれたが、その後の最新情報をいただいた。Harlequin RIP、1500dpi で 200 線の版出力をして PrintPoint 社で印刷した。

Norm は、誰しもがこの結果に驚いたと言っている。フィルム焼付けに比べると、Basys で焼いたものはシャープに上がっている。

来月の行事"Waterless Roads Ahead"へいち早く欧州から二人の方が参加登録をしてくれた。英国から Seacourt Limited 社の Roy Williams、オランダから IAC Offset 社の Marcel Meesters である。Seacourt 社の ISO14001 の状況、IAC 社の写真複製技法をもっと学びたいものだ。